

2014年9月14日 主日礼拝

説教「最も大きな祝福」

マタイの福音書9章1-8節

【最も大きな祝福】

主イエスは不思議なことをされました。自分では動けないほど重い中風の病人が運ばれて来ました。彼らの望みは病がいやされることです。ところが主イエスは、「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」と言われたのです。それは主イエスが、最も大きな祝福、「罪のゆるし」をお与えになったからです。

【祝福の出発点・罪】

宗教改革者ルターは、「罪のゆるしのあるところ、そこにいのちと祝福がある」と語りました。ですから罪は、キリストにある新しい「いのち」とそれにともなう祝福への出発点です。

主イエスがここでおっしゃる「罪」とは、悪いことをすることではない。私たちの存在そのものの罪深さです。複数形の罪と単数形の罪という言葉があります。言い換えると、ドゥーイング (doing) とビーイング (being)。ドゥーイングは、「何かをすること」という意味。外側の「行い」。ビーイングは、自分の内側の「在り方」、本質、存在。主イエスは、私たちの内側のビーイングをご存じです。この中風の男性が、どのような人生を送って

きたのか、マタイは何も記していない。それは、彼のこれまでの人生が、どうであったかは、関係ないから。善人であったか、悪人であるかも、大きな問題ではありません。問題は、この人の在り方。主イエスは、この人の在り方が、神から断ちきられていることを見てとられました。この男性には、いのちがない。肉体のいのちはあるが、たましいのいのちがない。神を愛するいのちがない。隣人を愛するいのちがなかったのです。

たとえ、病がいやされても、やがては、なにかの理由でこの地上の生涯は終わる。けれども、いのちといのちにともなう祝福を得るならば、その幸いは肉体の死を超えて、なお続く。だから主イエスは、いのちと祝福をまずお与えになった。罪の赦しという、最も大きな祝福を与えられたのです。

【イエス・キリストの救い】

律法学者たちは、心の中で、「この人は神をけがしている」(3)と言いました。律法学者たちは、罪をゆるすことができるのは、神さまだけであることは、知っていました。だから、主イエスの「自分には、罪を赦す権威がある」とおっしゃったのは、ご自分が神であるとおっしゃったのだと、正しく理解したのです。そして、腹をたてました。無理もないことです。けれども、ここにこそキリスト教の中心があるのです。

罪を赦すために、神から切り離された私たちの在り方を赦すために、赦してうけいれるために、神が人となって、この世に来て下さった。そして、十字架に。だから、私たちは、赦されたのです。罪のゆるしを得、いのちといのちにともなう祝福の中に入れられたのです。

【どちらがやさしいか】

『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらがやさしいか」と主イエスはおっしゃいました。罪を赦すことができるのは、ただ神さまだけ。ですから、答は「罪の赦し」です。けれども、主イエスは、この男性に「起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」(6)とも言われました。もっとも大きな罪の赦しの祝福に、地上の生涯における健康という祝福を添えて与えてくださったのです。

主イエスは、新しい時代をもたらされました。目に見えない罪の赦しと、目に見える病のいやしが、そのことを表しています。

「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」(2)。私たちも、この宣言を受けました。この宣言をくつがえすことはだれにもできません。だから私たちは、そんな宣言を受けたたがいを喜び、励まし合うのです。そして、いっしょに愛の生活を歩み続けるのです。